



# ボランティアで感じた 「ふれあいの大切さ」

さあ、着替えて水遊びに行こうね（八東こども園（八東））

暑いなか、頑張ったよ!!

## 夏のボランティア体験

児童関係

八東こども園（八東）

蒜山中学校3年

小谷 咲希さん

私は普段小さい子と接する機会がないので、こども園での活動を希望しました。

最初、緊張していた私に子ども達が「お姉ちゃん、お姉ちゃん」と声をかけてくれて、すぐに慣れることができました。時に、たくさんの子が泣き出し、「どうしたらいいんだろう」と戸惑う事もありましたが、先生と協力してあやすことが出来ました。

三日間という短い期間でしたが、かわいい子ども達と接することで、私もこんなだったのかなと思いつつ、楽しい時間を過ごせました。機会があったら、またボランティア活動に参加したいと思っています。

### 【施設の方からのお話】

いっしょに遊んでくれるお姉さんに子ども達はとても喜んでいきます。子ども達は普段と変わりませんが、学生さんの方が緊張しているかもしれないですね。学校の勉強とは違う経験ができるので、社会勉強になればと思います。

ボランティアを通して保育士の仕事を知ってもらえたら、嬉しく思います。



# 夏のボランティア 体験報告



今年、242名(中学生175名・高校生67名)が市内の社会福祉施設や地域の受け入れ施設など43か所で夏のボランティア体験に参加しました。

この事業は、ボランティア体験を通じて、社会福祉についての理解を深め、さまざまな出会いや新しい発見のなかから、みんなが地域のなかで「ともに生きていく」視点について考える機会の提供を目的としています。

## 児童関係

### 北房中央公民館(北房)

北房中学校3年

小林 暖佳 さん

習字を小学校1年生から習っていて、習字の楽しさを小学生に伝えたいと思ってボランティアを希望しました。

子ども達はとても元気で、集中し



お手本をしっかりと見て書こうね

て書くことが大変そうだったので、お手本を横に置いて丁寧に書くように声をかけました。

このボランティアを通して、自分から子ども達に声をかけたり、先生と自分から積極的にコミュニケーションをとったりすることができるようになったと思います。

## 【施設の方からのお話】

ボランティアをとおして、「教える」のではなく、「支援すること」を学んでほしいです。「こうして」と教えるのは簡単ですが、子ども自身ができるように支援することはとても難しいことです。

子ども達とふれあつて、一緒に悩

## 障害児者関係

### 旭川荘真庭地域センター(湯原)

津山商業高等学校1年

竹田 楓 さん

家の近くに旭川荘があり、どのような施設なのかは知っていましたが、どういふことをしているのかが気になり、今回希望しました。

ボランティアに行く前は、「黙々と作業をするところなのだろうか」と思っていました。実際は、アットホームな雰囲気、みなさん楽しそうに作業されていました。ご利用者さんから笑顔で積極的に話しかけてくださり、障害があるということをお忘れ一緒に活動しました。

将来のことは、まだ考えていませんが、障害者の方に関わる仕事をすることもあるかもしれないと感じています。

## 【施設の方からのお話】

自分から積極的に利用者の方々とコミュニケーションがとれていて、利用者を受けとめてもらいながら活動ができていました。

福祉施設でのボランティアは初めてのことでしたが、病院受診の付き添いや、送迎車リフトの昇降操作補助など、スタッフと一緒に支援に関わってもらいました。利用者への配慮についても、関わりの中で知っていたのと同時に「障害があつても特別ではないんだ」という気づきを得ていただければと思います。

福祉の仕事は「しんどい、つらい」といった先入観を持たれがちですが今回の経験と共に「明るい、楽しい」という印象も持ち帰っていただければ嬉しく思います。



いっしょに掃除「きれいにならう」



# 平成30年7月豪雨災害支援レポート

7月6日、岡山県に初めての「大雨特別警報」が発令され、真庭市でも300ミリを超える集中豪雨が発生しました。  
また、川の氾濫で、床上・床下浸水する家屋があわせて110棟を超え、崖崩れや道路の崩壊など多くの被害を受けました。

## 真庭市内の災害ボランティア活動

真庭市社会福祉協議会では、7月5日からの大雨に伴う浸水や土砂災害の被災世帯のうち、希望のあった世帯に災害ボランティアを募り、ボランティア活動を行いました。



土砂の搬出作業

- 【活動件数】
- ・土砂の撤去など 2件
  - ・浸水被害による石灰の散布など 3件
  - ・土嚢の撤去 1件

## 倉敷市・総社市 災害ボランティアセンターの運営支援

災害時のボランティア活動拠点である「災害ボランティアセンター」に真庭市社会福祉協議会の職員が運営支援として派遣されました（表1）。

表1 災害ボランティアセンターの運営支援職員派遣人数

倉敷市	17名
総社市	38名

表2 災害ボランティアバスへの参加者人数

ボランティア	53名 (うち高校生13名)
職員	12名

※8月10日時点の延べ人数

## 災害ボランティアバスの運行

8月10日現在、高梁市玉川町、倉敷市真備町に、計3回運行しました。高校生を含む多くの方にボランティアとして参加いただきました（表2）。



倉敷市真備町での活動

## 日頃のつながりを大切に

地域福祉課 山本陽子 主任

災害ボランティアセンターの運営支援では、県内外の社協から派遣された職員と民生委員さんをはじめとする地域の団体や住民による多くのボランティアが運営支援にあたっていました。多くの住民の参加に、日頃からの社協と地域のつながりを感じました。今後は、より一層住民の皆さんに社協事業の理解をすすめる、地域とのつながりを深めることで、「助け、助けられる社協」になりたいと思います。

また、災害ボランティアバスに同行し活動した際には、被災者のニーズに配慮することも大切ですが、被災された方に寄り添った支援を行うことの難しさ、大切さも知りました。この活動から見えたことを「真庭のもしも…」の時に活かしたいと思えます。

広報担当のつばやき

「9月1日」は何の日か、皆さんご存知ですか？実は「防災の日」なんです。1923年のこの日、関東大震災が発生し、10万人を超える死者・行方不明者が出ました。「もし災害が起こったら…」家族やご近所と話をしておくことも大切かもしれません。